

## ICRP が 1990 年に公表した年齢別の死亡確率

この表によると、10 ミリシーベルトから作業者に分類されている。大人の中の作業者として 10mSv となっているのに、学校の校庭を 20mSv とした文科省は、悪魔の決定をしていると言えよう。

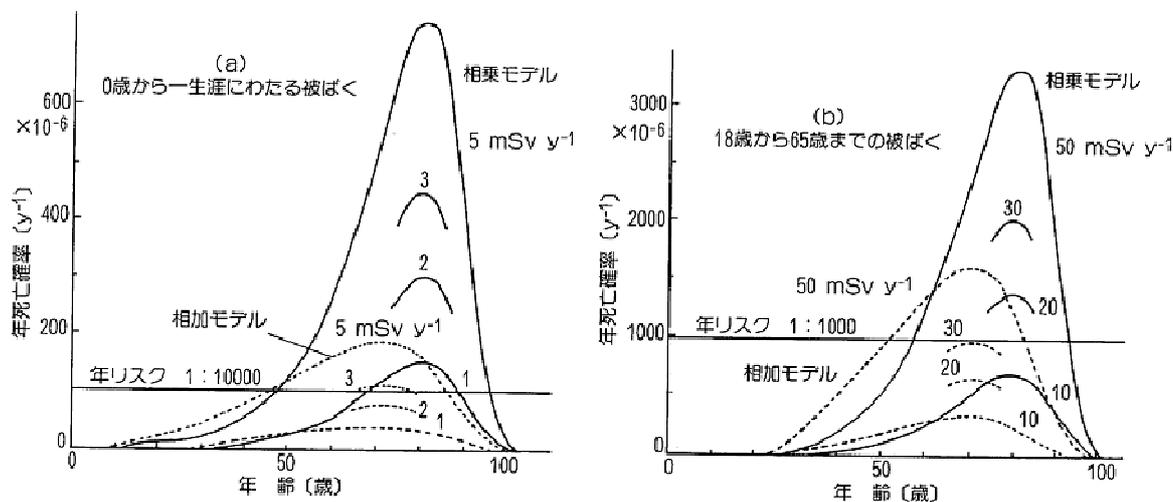
表 3 1990年勧告における年齢別の条件付年死亡確率  
(100万人あたり年死亡数)

年線量 (mSv)	年 齢 (歳)						
	30	40	50	60	65	70	75
<b>作業者</b>							
50	42	190	570	1,500	2,200	3,200	4,700
30	25	100	340	980	1,300	2,000	2,800
20	17	75	230	590	890	1,300	1,900
15	13	55	170	440	650	1,000	1,400
10	9	37	114	295	445	650	930
50(1977)	625	625	625	625	625	625	625
<b>公衆</b>							
5	4	20	60	150	220	320	470
3	2	12	35	90	130	200	280
2	2	8	24	60	90	130	190
1	1	4	12	30	45	65	95
0.5	0.4	2	6	15	22	32	47
1(1977)	12	12	12	12	12	12	12

注釈：1977年勧告は相加モデル、1990年勧告は相乗モデル（DDREFは2）で計算してある。

〔出典〕ICRP Publication 60 "Recommendation of International Commission on Radiological Protection", (邦訳：日本アイソトープ協会)、附属書C(表C-5)から引用

## ICRP が公表している生涯にわたる年死亡確率



a) 誕生から一生涯にわたる被曝 及び b) 18歳から65歳までの被曝  
それぞれ女性について計算したもの。線量及び線量率効果係数(DDREF)は2と仮定。

図2 生涯にわたる年死亡確率(無条件年死亡確率)

〔出典〕ICRP Publication 60 "Recommendation of International Commission on Radiological Protection", (邦訳：日本アイソトープ協会)、附属書C(図C-9)から引用

左図は最高 5mSv/年までしか記載されていない。一般人の場合、それ以上は許されないと考えられているのだろう。左図から 10mSv, 20mSv の場合を想像すると右図の 10mSv とゼロオからの 5mSv を想像し、その上の 20mSv より高い値となるであろう 20mSv を想像してしまう。ICRP が原発推進機関である事を考えると実際の被害はどのようになるのだろうか……。